

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

中学校区におけるめざす子ども像 ≪鳳校区のめざす子ども像≫:思いやりをもち、自分も他の人も大切にし、認め合える人										堺市立 鳳 小学校									
令和6年度 学校教育目標「自ら学び 心豊かにともに育つ」 学校重点目標「認め合い 助け合い 学び合う」										キーワード「対話 あいさつ なかま」									
確かな学びの現状 本校では、令和2年度から生活科・総合的な学習の時間を研究の中心に据え、社会的実践力の向上に重点を置いて問題解決型の授業を意識した学習を進めてきた。昨年度は、子どもと子どもの対話を大切にしつつ、よりよく解決に向かおうとする姿勢を育てるため、子どもと子どもの対話を増やす「学び合いタイム」を取り入れた授業づくりを行ってきた。みんなで学ぶことが楽しいと思える授業づくり、集団づくりをめざしている。現状としては、みんなで学ぶ楽しさを感じている児童が多いが、話す・聞く力は全国平均に比べて低い数値となっている。そこでコミュニケーションレーニングを実施したり、学校の授業から話し合う時間を積極的に取り入れなら学習を進めて学力向上をめざしている。また、カリキュラムづくりにも力を入れ、生活・総合を軸にして他教科との教科横断を考えた計画づくりをしたり、児童の思いを実現できるように計画をしたりすることで、子どもたちの満足感にもつながり、生活・総合の時間が好きと感じている児童が8割となっている。										豊かな心の現状 指導を継続し、あいさつが習慣づいている児童が増えた。児童アンケートの「自分からすすんで挨拶をしている」の項目では肯定的な回答が86%、保護者アンケートの「子どもはすすんであいさつをしている」の項目でも肯定的な回答が76%であった。加えて、地域の方からも「あいさつをよくしている」という評価をいただくことができた。昨年度、「ありがとう」などの種類を増やすことに取り組み始めたため、今年度も継続してあいさつの種類が増えるよう取り組んでいく。あいさつの種類を増やすことで、相手を認め、尊重する心を育てたい。ルールやきまりについては、児童のアンケートの結果は廊下歩行で83%、きまりを守るで89%と肯定的な意見が多いが、できていない。ルールやきまりを守る大切さに気付ける指導を継続する必要がある。									
健やかな体の現状 本校は運動場が狭く、休み時間に体を動かす機会が少ない。また、学校の体育の授業以外で、運動をする機会があまりない児童も多い。そのため例年スポーツテストの結果は、堺市平均を下回る項目が多い。その中でも反復横跳びは全学年が堺市平均を下回っており、2学年以上下回っている学年もある。そのため敏捷性を中心に、体力の向上を養う必要がある。																			
大項目	中項目	大項目 中項目 小項目	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (2学期中)	達成状況(年度末)											
								自己評価		学校関係者評価									
確かな学び	授業改善	・問題解決学習による考える力の育成	●子どもと子どもの対話を増やす授業づくりに取り組む。 生活・総合を軸にしたカリキュラムを充実させる。	・校内授業研究、校内研修会での討議 ・児童アンケートの下記項目で肯定的回答が80%を上回る。 「授業で、自分の思いや考えを伝えている。」 「先生や友だちの話をしっかり聞いている。」 「生活・総合の勉強が好きだ。」	・協議 ・児童アンケート	年度末	○	・1学期に作成した低・中・高の「対話でめざす子ども像」に近づくために、各学年で計画しながら話し合う機会を授業中に多く取り入れることができた。 ・各教科の年間指導計画を参考にしながら総合を各教科を横断するカリキュラムづくりを行うことができた。	◎	・「授業で、自分の思いや考えを伝えている。」77% 「先生や友だちの話をしっかり聞いている。」91% 「生活・総合の勉強が好きだ。」82% 聞く、生活・総合が好きだという項目においては目標を達成することができたが、伝えることに課題が見られる。ペア、グループ、全体など話し合う時間を大切に授業を進めていきたい。	◎	・授業観察等で対話をしている場面を多く見る事ができた。 ・対話をするを通して、自分の考えを深めることができていていると感じる。 ・ICTの活用が進んでいると感じる。一人一台端末を小さい学年から使いこなしていると感じるが、視力の低下や、書く力の減退が危惧される。情報の正しさを見極める力の育成にも努めてほしい。							
		・ICTの活用を推進する	★授業において、児童用パソコンを活用する。	学習で児童がパソコンを週2回以上活用する。	・児童アンケート	年度末	△	・低学年においても児童用パソコンを利用する機会が増えてきている。	○	・「週2回以上パソコンを活用している。」 1～2年 1学期43.1% 2学期65.1% 3～6年 1学期60.2% 2学期67.8% 2学期のほうが活用頻度が上がっている。	○	・ICTの活用が進んでいると感じる。一人一台端末を小さい学年から使いこなしていると感じるが、視力の低下や、書く力の減退が危惧される。情報の正しさを見極める力の育成にも努めてほしい。							
		・対話力の育成	コミュニケーションレーニングを実施する。	児童アンケートの下記項目で肯定的回答が80%を上回る。 「コミュニケーションレーニングで話したり、聞いたりすることに楽しんで取り組むことができた。」	・児童アンケート	年度末	○	・学期に1本以上どの学年もコミュニケーションに取り組むことができた。	○	・年間を通して、各学期に1本以上のコミュニケーションレーニングの取り組みを継続して行うことができた。 ・「コミュニケーションレーニングで話したり、聞いたりすることに楽しんで取り組むことができた。」 1学期85.2% 2学期76.2% 1学期は80%を上回ったが、2学期は80%を下回った。来年度も継続して取り組んでいきたい。	○								
豊かな心・健やかな体	自尊感情の育成	・互いを認め合い、助け合う仲間づくり	●あいさつをできるよう、また「ありがとう」などのあいさつの種類が増えるような取り組みを推進する。 学校いじめ防止基本方針や人権教育計画をもとに互いを認め合う集団作りに取り組む。 鳳人権の日を通しての児童同士のつながりを充実させる。	児童アンケートの「あいさつ」に係わる項目で肯定回答が90%を上回る。 児童アンケートの下記項目で肯定的回答が90%を上回る。 「人が困っているときは進んで助けている」 児童アンケートの下記項目で肯定的回答が80%を上回る。 「つながりWSの目標を意識し、過ごすことができた」	・児童アンケート	年度末	○	・あいさつの取り組みを通して、自ら進んであいさつができる児童は増えているように感じる。しかし、自発的に「おはよう」「さようなら」以外の種類のあいさつをする児童は少ないのが現状である。「ありがとう」などのあいさつの種類を増やすような取り組みや指導をしていく必要がある。 ・鳳人権の日の学習後に各クラスでテーマに沿った目標を立て、実践していくことができた。つながりWSではどのくらい目標を達成できたのかを目に見える形で残したり、学期ごとに友だちからのメッセージを受け取りながら進めていくことができている。	○	・児童アンケートの「あいさつ」に係る項目での肯定回答率は90%を下回った。今後、あいさつの大切さについて再確認し、あいさつができるような取り組みをしていく必要がある。また、「おはよう」「さようなら」以外のあいさつも自らできるような取り組みや指導を継続していきたい。 ・児童アンケートの「人が困っているときは進んで助けている」の肯定的回答率は、1学期87.3%、2学期87.6%だった。クラスや学年の取り組みを中心に、今後も互いを認め合う集団作りに取り組んでいきたい。	◎	・あいさつをする児童が増えている。見守り隊をしていて、以前はこちからあいさつをしても何も言わず通り過ぎる児童が一定数いたが、今はこちからあいさつをすれば返ってくるようになった。 ・全学年での「ふわふわ言葉 ちくちく言葉」の学習が興味深い。つながりワークシートの取り組みを見ても、豊かな心を育むための指導がなされていると感じる。							
		運動に親しませるとともに、体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。	●体育朝礼「なわとび検定」を通して、体育授業時・休み時間・放課後・休日等に児童自らが「運動をしよう!!」「もっと運動がしたい!!」という意欲につなげる。	・6月と12月の新体力テストの反復横跳び(後感性)の記録と比較 ・休み時間のなわとびタイムの参加状況	・新体力テスト「反復横跳び」 ・児童観察	随時 年度末	○	・2学期に2回、教育課程内において、奇数学年と偶数学年に分けた体育集会を実施した。それぞれに代表教員が示範を含めた全体指導を行い、児童の意欲と技能の向上を図った。また、担当教員が持ち回りにて週に1度、登校後の始業前時間を用いて、運動場で「なわとび検定」の音楽を流すことにより、児童の体力向上の機会を確保し、より一層の意欲の向上に努めた。	○	3学期、左記の体育集会の3回目を実施した。始業前時間の取り組みは年度末まで継続し、多くの児童の参加が見られた。反復横跳び(敏捷性)の記録において、全体的な伸びが見られた。身体の発達を考慮すると、記録の伸びは当然であるとも言える。様々な要素が絡んでいる体力テストの結果のみで判断するのは早計であるが、本取り組みは体力の向上に一定の成果を示したと考えている。 なわとびは、様々な要素からなる体力をバランスよく向上させることができる。体育の時間に取り入れる学級も多数あり、また、休み時間にも取り組みやすい運動である。継続していくことが大切なので、次年度も本取り組みを提案したい。	○	・鳳小学校のスポーツテストの結果において、例年堺市平均を下回る項目が多い理由がどこにあるのか不思議である。 ・児童が「しんどい」と感じることは長続きしない。「なわとび検定」を継続して実施し、体力の向上を図ってほしい。							
		個に応じた支援体制づくり	子ども支援委員会で支援体制・支援方法を検討、工夫する。 学校環境のUD化	支援体制・支援方法を計画通りに進めている。 学習環境の整備を行う	・自己診断 ・実績報告	年度末 年度末	○ ○	・子ども支援委員会を定期的で開催することで計画通りに進んでいる。 ・学級で使えるUDIについて写真や使用の仕方の説明を行い共通理解を図った。	◎ ○	・特別支援教育コーディネータを中心に、子ども支援委員会で個に応じた支援体制や支援方法を共有・検討することができた。 ・学年ごとに統一されたUD化により、子どもたちにとってよりわかりやすい教室環境が整った。	○ ○	・以前と比べ、廊下に物が少なくなり、片付いていると感じる。これからも子どもたちが生活しやすい学習環境の整備に取り組んでいってほしい。							
校長より(年度末) 全教職員で「対話 あいさつ なかま」をキーワードに、自ら学び、心豊かにともに育つ児童の育成に取り組んできた。 確かな学びでは、「対話」に重点を置きながら、「聞き上手」「話し上手」な児童となるよう、また、児童が主体的・対話的な深い学びができるような授業づくりに取り組んできた。今後、ICTを効果的に活用しながら、個別最適な学び、児童自らが学びを進めていく「学びのコンパス」の実現に向けて取り組んでいきたい。 R－PDCAサイクルを効果的に機能させながら、児童の「知・徳・体」をバランスよく育てていきたいと考えている。鳳小学校のすべての子どもにとって居場所や出番のある学校となるよう取り組んでいきたい。										学校関係者評価者から(年度末) 継続したあいさつの取り組みで、「自分から」「大きな声で」あいさつができる子どもが定着してきた。引き続き登下校の安全指導も含め指導をしてほしい。ICTの活用について、児童がツールとして使いこなしていると感じる。並行して、鉛筆を持ってノートなどに自分で書いて考えるという指導も大切にしてほしい。テストが終わった後や休み時間など、本を読んでいる児童が多く見られた。時間をうまく使えていると感じる。メディアリテラシーについて、児童だけではなく、保護者にもしっかりと啓発をしてほしい。授業中も休み時間も、子どもたちがいきいきと活動している様子がみられた。									